

通し番号	4595
------	------

分類番号	24-34-1B-04
------	-------------

ウメ新品種‘十郎小町’および‘虎子姫’の自家和合性及び交雑和合性

[要約] ‘十郎小町’は自家和合性がなく、‘十郎’、‘南高’‘甲州最小’および‘竜崎小梅’とは交雑和合性である。‘虎子姫’は自家和合性であり、‘十郎’、‘南高’および‘甲州最小’とは交雑和合性である。

神奈川県農業技術センター・生産技術部 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ウメは自家不和合性の品種が多く、結実確保のためには他品種との混植が必要になるが、本県で育成したウメ新品種‘十郎小町’および‘虎子姫’において自家和合性や既存品種との交雑和合性は明らかにされていない。

そこで、‘十郎小町’および‘虎子姫’の安定生産に向けて、両品種の自家和合性検定及び既存品種との交雑和合性検定を実施する。

[成果の内容・特徴]

- 1 ‘十郎小町’は自家和合性がなく、‘十郎’、‘南高’‘甲州最小’および‘竜崎小梅’とは交雑和合性であるが、‘十郎’の花粉を受粉した場合の結実率はやや低い（表1）。
- 2 ‘虎子姫’は自家和合性であり、‘十郎’、‘南高’および‘甲州最小’とは交雑和合性で結実率も高い（表2）。
- 3 ‘十郎小町’および‘虎子姫’は‘十郎’や‘南高’と開花期が重なるため受粉樹としても有効である（表1～3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 受粉用品種を選定する際は各地域における開花時期の重なりを考慮する。
- 2 ‘虎子姫’は自家和合性であるが、より安定的に生産するためには他品種の混植が望ましい。

[具体的データ]

表1 ‘十郎小町’における自家和合性及び既存品種との交雑和合性検定結果

交雫組み合わせ ♀ × ♂	年度	受粉花数	結実数	結実率 (%)
十郎小町 × 十郎小町	2008	13	0	0
	2012	13	0	0
十郎小町 × 十郎	2010	10	1	10
	2012	23	4	17
十郎小町 × 南高	2012	20	9	45
十郎小町 × 甲州最小	2008	4	2	50
	2010	10	1	10
十郎小町 × 竜峠小梅	2012	30	8	27
	2010	10	1	10
十郎 × 十郎小町	2009	10	6	60
	2010	10	4	40
南高 × 十郎小町	2012	22	13	59
	2012	30	24	80

表2 ‘虎子姫’における自家和合性及び既存品種との交雫和合性検定結果

交雫組み合わせ ♀ × ♂	年度	受粉花数	結実数	結実率 (%)
虎子姫 × 虎子姫	2008	21	11	52
	2012	12	7	58
虎子姫 × 十郎	2008	7	3	43
	2010	10	4	40
虎子姫 × 南高	2012	28	7	25
	2008	5	5	100
虎子姫 × 甲州最小	2009	10	7	70
	2010	10	3	30
虎子姫 × 甲州最小	2012	29	18	62
	2008	4	1	25
十郎 × 虎子姫	2012	28	17	61
	2010	9	8	89
南高 × 虎子姫	2012	30	11	37
	2009	10	7	70
南高 × 虎子姫	2012	32	19	59

表3 供試品種の開花期(2011～2013年の平均)

品種	開花期		
	始	盛	終
十郎小町	2/20	3/4	3/18
虎子姫	2/24	3/7	3/22
十郎	2/23	3/6	3/21
南高	2/25	3/5	3/17
甲州最小	2/16	2/25	3/15
竜峠小梅	2/22	3/2	3/20

[資料名] 平成20、21、22、24年度試験研究成績書(果樹)

[研究課題名] 本県育成ウメ新品種の安定生産技術の確立

[研究期間] 平成20～24年度

[研究者担当名] 曽根田友暁、柴田健一郎、小泉和明、小林正伸